

真冬に出るシャクガ

フユシャクの仲間

6本足で翅が4枚(2対)あるのが昆虫です。しかし、このフユシャクガの仲間には雌だけ、羽のない種類が多い。なぜ翅がないのか?それは寒い冬に成虫が出てくるので、少しでも体温を失わないように翅をなくしたと思われる。翅のない雌はおなかの先から性フェロモンというにおいの物質を出して雄を呼び寄せます。雄のほうは雌の所に飛んできて、交尾を済ませた雌はその近くに産卵します。冬は昆虫にとっては冬眠する時、その真冬に成虫が出現するフユシャク



フチグロエダシャク(上)とウスバフユエダシャク(下):左が雄、右が雌



「昆虫と自然の館」の入口近くの石碑で見つけたフユシャクガの雌(雌だけでは種名を決め難い)

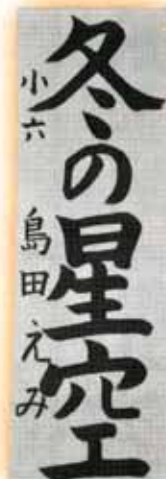
の中でも、フチグロトゲエダシャクは初春の2月下旬から3月上旬に出現し、日中に活動する変わり者◆実は、埼玉県では1981年に採集されて以来記録がなく、2008年さいたま市の秋が瀬公園付近で再発見されました。生息場所が局所的である、雄しか飛ばない、雌を見つけると地面に降りて交尾してしまう、飛ぶ時間が限られている等々の理由でなかなか見つけれないのだと思われます◆さいたま市で知られているだけでも、皆さんの住まいの近くにもいるかも知れません。生息環境は、河川の堤防、高原の草地など。食草は多くのものを食べますが特に、ノイバラ・サクラ・スズメノエンドウなどでの飼育が容易です。見つめましたらご一報ください。

(荻島和美)

おごせ アートミュージアム



たんぼぼ しみず 清水 咲菜さん
『キリン』



6年 しまだ 島田 えみさん
『冬の星空』



越生小学校

2月の納税

国民健康保険税 第8期
(2月28日まで)

人口と世帯

1月1日現在
()は前月比

総人口 12,612人(-24)
男性 6,289人(-11)
女性 6,323人(-13)
世帯数 4,922世帯(-5)

あそびがき

越生梅林梅まつりの名物の一つといえはミニS.L.。自分は、数年前、その運転手を務めていました。傍から見ればおもしろいような車両ですが、スムーズに操縦するには、かなりの熟練の技が必要です。なかなかコツがつかめなかつた自分、焦って操縦を誤り、脱線させてしまったことは、今でも苦しい思い出です。さて、今年も2月16日から、梅まつりが開催されます。あれから何年か経った今、今度はミニS.L.の客車からのんびり梅の花を眺めたいと思います。(月)

【お詫びと訂正】
1月号の20ページ「健康カレンダー」内の見出し部分にて、『乳がん検診』と表記すべきところを、『胃がん検診』と表記しておりました。訂正し、ご迷惑をおかけした皆様深くお詫び申し上げます。